

# 夜間学校 ニュース

1987年 6/6  
西成区萩之茶屋2の  
8の9 旅路の里気付  
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人の  
指紋押なつ拒否断固支持！  
定住外国人に市民権を

みんなでつくろう

みんなの 会館

三人よれば何とかの知恵

毎週金曜日

夜七時より

市民館三階

釜ヶ崎夜間学校

## 「恥安職員夜間学校」に苦情 「事実」は正確に伝えて！

昨日、手帳の切りかえに「あいりん恥安」に行ったところ、窓口の職員からえらく苦情をいわれた。

なんの二とかというところ三週間前に書いた、恥安職員がアブレひったくりをつかまえたことについてである。

苦情を申し立てたのは、つかまえた職員本人で、あのニュースをよく読まないでた人なる職員の労働者に対する暴行事件と思いつい

だ労働者からえらくおこられた。もつときつちり書いて欲しい。というところが、夜間学校ニュースに書かれたことによつて上司におこられた。というところが二つ目。これが苦情申し立ての理由。

二つともこちらに言つてこられても困る理由なのだが、あらためて事情を伝える。

その職員がアブレを支給していた時に、アブレを渡さなければならぬ。二の職員は、正当な受給者に渡すのが仕事だから、それをまつこうするため追いかけてつかまえた。正

オベキ当人ではない人間がアブレをこつて逃げたので、窓口を乗りこえて追いかけた。二く三百円追いかけてつかまえたところ、抵抗され、右手小指や胸などをなぐられた。それでもおさえつけて恥安までようやく連れて行った。そういうことだといふ。気の毒なこと、医者に行つた時の金は自分持ちで、労災扱いにはくてもらえないそう。

今は、組合の発行するドヤ証明を金融ヤとけつたくして費用し、三つも手帳をつくつていっているのをつかまえようと努力して

いるとも言つていた。えらく正義感あふれ、恥熱心な職員で、みあげたものだと思つたが、今や学利追及の人材派遣会社に職業紹介という恥に本来の業務を取られ、空洞化している自分達の職場や、裏面でのようなことについて、労働者として正義感をはきき

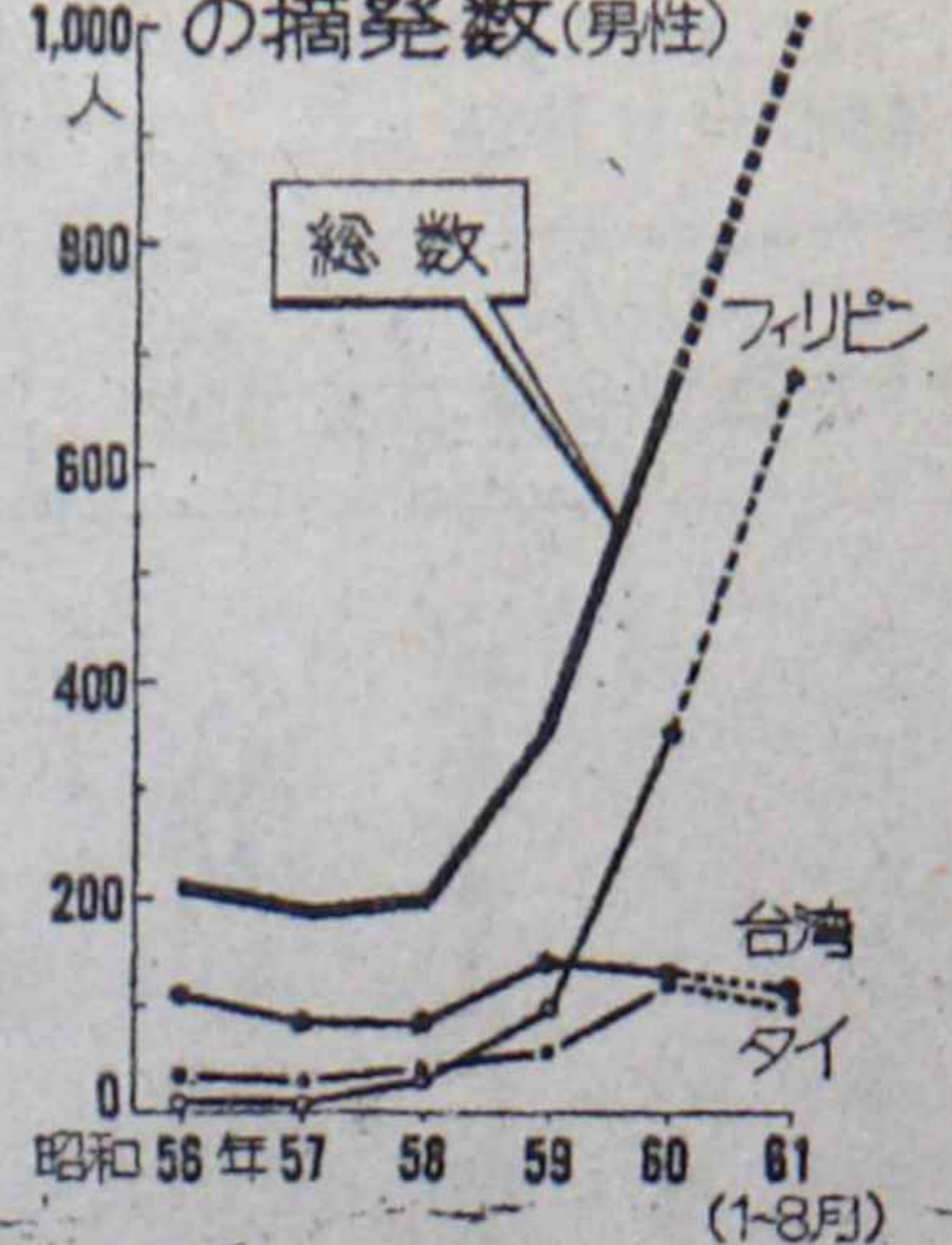
いるとも言つていた。えらく正義感あふれ、恥熱心な職員で、みあげたものだと思つたが、今や学利追及の人材派遣会社に職業紹介という恥に本来の業務を取られ、空洞化している自分達の職場や、裏面でのようなことについて、労働者として正義感をはきき

いるとも言つていた。えらく正義感あふれ、恥熱心な職員で、みあげたものだと思つたが、今や学利追及の人材派遣会社に職業紹介という恥に本来の業務を取られ、空洞化している自分達の職場や、裏面でのようなことについて、労働者として正義感をはきき

いるとも言つていた。えらく正義感あふれ、恥熱心な職員で、みあげたものだと思つたが、今や学利追及の人材派遣会社に職業紹介という恥に本来の業務を取られ、空洞化している自分達の職場や、裏面でのようなことについて、労働者として正義感をはきき



外国人不法就労者の摘発数(男性)



と、四人に一人の割合だ。このうち七割にあたる六百八十三人がフィリピン人。以下、台湾百十三人、タイ九十九人、パキスタン五十五人の順となっている。日本での仕事は土木作業員が四百二十八人と約半数を占め、工員百九十五人、給仕九十四人、雑役八十一人などと続く。

### 外国人男性の不法就労急増

観光客などを装って入国し、就労する外国人の正確な数はつかめない。しかし、法務省入国管理局自らが「氷山の一角にすぎない」という摘発者数(男性)だけでも、六十一年に五千六百二十九人、六十一年も八月までの集計で四千五百六十七人と、前年同期に比べ二六・四%増、年間を通じた概数では七千六百三十人に達する。

その中で目立つのが、ここ二、三年の男性の増加ぶり。六十一年一八月で千二十八人。

法務省入国管理局の調べでは、昨年六月に観光ビザの滞在期間が切れ、この間に出国していないフィリピン人は一万二千人。フィリピン以外の国からの入国者や、就学、興行目的のビザで入国したフィリピン人などを含めると、三万人はいるのではないかとみられている。

仕事が原油のたぶつきで減少、代わって「円高日本」がスポットライトを浴びた、という事情がある。

日本はこれまで一貫して、こうした海外からの出稼ぎ労働者を拒んできた。「出入国管理及び難民認定法」によると、国内で就労できる外国人は、日本人では代替できない技術や技能を持った人に限られる。外資系会社の管理者や、外国料理のコンク、語学教師などは認められていない半面、ホステスや土木、工場の作業員といった単純な仕事に就くこと

### 賃金水準低下

不法就労者が急増した背景には、もともと母国の失業が多いのに加え、格好の出稼ぎ先だった中東の

上から

とはできない仕組みだ。その法の網をかいくくって、外国人出稼ぎ者が激増する。これに対し、法務省入国管理局は「いま不法就労者が増えているのは、国内が不況で、低賃金労働が求められているためだ。違法就労だから、雇う方、雇われる方にちがみがある。これを合法化するれば、最低賃金法や労基法の適用を当然に受ける結果、少なくとも雇うメリットはなくなる。従って、いま、従来の方針を変更する圧力がかかっているとは思わない」(小林俊二局長)という。

しかし、実際に外国人の出稼ぎ労働者が急増している業界では、日本人労働者の雇用不安が現実の問題として浮上りつつある。

大工や左官、ブロック、タイル業者ら四十三万人でつくっている全国建設労働組合連合(江口利作委員長)は、外国人労働者の実態調査に乗り出した。最近の急増は、同業の奪い合いが激しい時には、同業者の仕事が減らし、全体の賃金水準を落とすことがわかって、安い海外の労働力をほしが業者があらわれるからだ。

### 法務省の役人はいう

「日本の法律、破っても、ここで働かなくてはなりません。フィリピン人特有の巻き舌の英語で、マークはためらいもなくいう。五十一歳。昨年五月、有効期間三ヶ月の観光ビザで来日した。見つければ、いやなく故国へ強制送還される不法残留(オーバーステイ)組の一人。

横浜市内の造園業者に雇われていたが、言葉が通じないために解雇され、今年初めからは行きつけの飲み屋の紹介で、川崎市内の建設現場で整地や道具のあと片づけなどをして

### 仕事さぼらず

### 仲間の信頼も

川崎市に住むある組合員(三)は「日本の若いのと違って、さぼらない。これまで使った二百人ばかりの

うちでは、最も信頼できる相棒だ」と、雇っているフィリピン人(三)の働きぶりを絶賛した。

国際競争に勝ち抜くために企業は優秀な外国人を正社員として採用せよ、と主張する小池和男京大教授(経済学)も、こうした単純労働者の受け入れには慎重だ。「西独など欧州諸国がトルコ人らを移入したのは、自分たちがやりたくない底辺の労働をさせるため。いつの時代、どの社会でも、こうした問題は自国の都合が優先する。政府はまず国民の雇用を守ることを。雇用環境を悪化させ、労働の質を低下させるような不熟練労働者を受け入れては、後に悔いを残す」との主張である。

### 強制送還39人

### いま姿見え

日当は、昼食代五百円を差し引いて八千五百円。同じ年ごろの、経験豊富な日本人労働者の二分の一程度だが、フィリピン人の中では良い方だ。自分の生活は切り詰めて、月に十万円は家族に送金する。

マークはもともと大学出のエンジニア。石油危機で外国航路の船員の職を失い、母国にある米海軍基地や保険会社を転々とした。低賃金のうえに年率二ケタのインフレ。妻(三)と共稼ぎでも二十歳を頭にして七人の子供たちを、満足に学校に通わせることさえ難しくなった。人づてに耳寄りな話を聞いた。「日本なら高給が取れる」。食器類を売る歩合制の仕事に妻に続けさせ、マークは家族のもとを離れた。

横浜市内にある六畳一間のアパートに、同胞三人と住む。一人七千円の家賃。二つ折りにしたふとんのほか、テレビと小型の電気ストーブがひとつずつ。二月の冷たいすき間風が吹き込む部屋で、マークは家族の写真を一枚ずつ繰った。未っ子は、彼が日本にいた間に生まれた女の赤ちゃん。「フィリピンに比べれば、仕事もつらくない。一生懸命に稼いで、家族を支えなくては」

「働きたいといっってやって来るフィリピン人たちが、去年春ごろから急に増えましてね。違法滞在だとわかっていきましたが、とにかく真剣に頼まれ、仲間も口添えするので、帰れともいえず……。愛知県岡崎市のプラスチック部品加工会社、第一化学の依田昇社長(三)は、違法滞在者を雇ったいきさつを語った。従業員は約二十人。大手の自動車、家電メーカーの二次下請け会社である。

困った外国人の駆け込み寺です」と依田さん。世話好きで、フィリピン人たちの衣食住の面倒をみたりほか、初めて摘発された直後には、残ったフィリピン人たちに帰国旅費を稼がせるため、強制送還を四ヶ月先に延ばすよう入管あてに嘆願書を送ったほどだ。だが、彼らを置くのにはもう一つの理由があった。

時給五百円。高校生のアルバイト並みの低い賃金で、三、四十代の働き盛りの男たちが雇えた。同社の取引先は、円高で輸出不振にあえぐ自動車、家電関係の企業だけに、経営削減、合理化の要求も強い。元請けからの一方的な単価切り下げに耐えざるを得ないこともある。プラスチック製品のへりを削ったりする作業には人手がいるが、人を増やせば利益は出ない。頼って来るフィリピン人たちが雇わない手はなかった。

人数が多すぎて自分のところで使いきれない分は、取引先の、これもコストダウンに身を削る自動車部品下請けメーカーに紹介した。日本人の半分以上の賃金のうえ、深夜割増しや社会保険、いろいろな福利厚生も考えなくて済む。円高不況のもとで「渡りに舟」の存在として重宝がられ、お返しにと第一化学に仕事を回してくれた取引先もあった。

### 輸出振るわず 合理化の荒波

大企業は海外に工場をつくり、中小企業は賃金の外国人労働者を求める

1987年 2月 朝日新聞